

協働でつくる元気なまち

「真の自立」を目指して新年に臨む



岩美町長 榎本 武利

明けましておめでとうございます。

平成19年の新春を、ご家族おそろいで迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

さて、岩美町は自立を掲げて5年目を迎えるようとしています。自治の基本は住民であり、真の自立を確立するためには、住民が主役となって町をつくっていく必要があります。「住民が自信と誇りを持てるまち」住民と行政が一体となった「協働のまち」の実現にむけて、現在第8次総合計画の策定を進めています。5年目の節目の年に自立を確固たるものとするため、平成19年は次のとおり4つの課題を設定し、まちづくりに取り組んでまいりる所存であります。



「協働と改革を推進するまち」

協働のまちづくりのためには、住民と行政がまちづくりの目的や課題を共有したうえで、自分たちが暮らす身近な地域をより良い



ものとするために、住民自らが参加、参画してまちづくりに取り組むことが必要です。情報の共有、役割分担と負担区分など住民自治の基本的な方向を明確にするために、「まちづくり条例」の制定を進めます。

また、社会情勢の変化によって、本町をとりまく状況も急速に変化しています。これらに迅速かつ的確に対応するため、引き続き行政改革を進めるとともに、行政自体を評価する仕組みを導入し、効率的で効果的な行政運営に努めてまいります。



「少子化について」

2005年に実施された国勢調査に基づく日本の総人口が戦後初めて前年を下回る結果となりました。また、同年の合計特殊出生率も過去最低を